

「もみ殻」をどうする？

まっすぐに伸びた道、連綿と続く
広大な田。かつて琵琶湖に次ぐ日本
第二を誇った湖沼「八郎潟」を国営干
拓事業で陸地化した人工の村である
秋田県大潟村。「あきたこまち」の産
地で、この村だけで県全体のコメ生
産量の11%（約6万1千トン）を占
めるそうです。昭和39年の開村当時、
14人だった村の人口は現在約3千
人。就業人口の8割が専業稲作農家
で、1万ヘクタールを担っています。

7月8日、以前から念願だったこの
地域へ視察に出かけました。行く先
は、男鹿半島の付け根に当たるこの
大潟村と、やや南部の大曲花火で名
高い大仙市。目的は「もみ殻のエネ
ルギー利用」の状況を見ること。

今、全国でもみ殻の処分や利用の
在り方が大きな課題になっていて、
当市も例外ではありません。以前は、
山状にしたそれに煙突を差して燃や
すのが当たり前の風景で、あの臭い
も晩秋の風物詩の一つでした。燐炭
は肥料となり、生殻は土地改良の
暗渠排水の緩衝材や畜舎の敷材で多
くを利用。しかし、近年は環境問題

もあり野では燃やせず、当地では一
部はたい肥材や田畑への鋤込みも行
われていますが、処理に困る農家か
ら解決策を求める声が多くなってい
ました。燐炭となれば肥料という宝
そうでなければ産業廃棄物。

大潟村では、年間1千8百トンの
もみ殻をカントリーエレベーター
（大変な規模の！）敷地内に無公害
対応のバイオマスボイラーを設置し
て熱供給に活用。村内の公共施設（小
中学校や温浴施設、村営ホテルなど）
へ温水を送っています。回収した稲
わらからはメタンガスを精製。年間
4百トン生産される燐炭は、肥料や
育苗材、Jクレジット化をして、全
て水田に戻しています。太陽光や風
力発電にも取り組み、まさに全国
トップの「脱炭素先行地域」を標榜
している。大仙市は小型ボイラーで
温浴施設を運営。両市村の先進ぶり
に驚きと羨望を覚えましたが、片隅
には我々にもできるというほのかな
確信も持てました。秋田の日帰りは
きつかったけれど余りある満足感
も。百聞は一見に如かず！

【問合せ】保健課 ☎773・6811

救急医療 ～夜間などに困ったときは～

電話相談

時18:00～翌朝8:00

日曜・祝日は24時間対応

・新潟県救急医療電話相談

対15歳以上

☎025・284・7119（#7119でも可）

・新潟県小児救急医療電話相談

対15歳未満

☎025・288・2525（#8000でも可）

LINEで相談「AI救急相談アプリ」

救急医療の相談や緊急度の判定ができます。

全国版救急受診アプリ「Q助（きゅーすけ）」

緊急度判定を支援し、利用できる医療機
関や受診手段の情報を提供します。事前に
アプリをダウンロードして、いざという
ときに備えましょう。

休日・夜間救急 連絡先

・南魚沼市民病院 ☎788・1222

・魚沼基幹病院 ☎777・3200

・齋藤記念病院（脳神経外科救急）☎773・5111

詳しくは

AI救急相談
アプリ総務省消防庁
ウェブサイト

市ウェブサイト

健康ひろば



知らないと怖いCKD（慢性腎臓病）

～慢性腎臓病の基礎知識、予防のポイント～

CKD（慢性腎臓病）は新たな国民病と言われている。症状が進むと尿が作られなくなり、人工透析が必要になりますが、早期発見、早期治療で予防できます。

腎臓専門医から慢性腎臓病の基礎知識や予防についての話聞くことができます。あなたの大切な腎臓を守るために、ぜひご参加ください。

講演会を開催します

日 時 9月11日(木) 19:00～20:10
会 場 本庁舎 大会議室
講 師 田部井 薫先生
(南魚沼市民病院透析センター長)

申 込 先 保健課 ☎773・6811

申込締切 9月5日(金)

